

## 安全保障外交政策研究会

---

中国が大国化し、アジア太平洋地域でパワー・トランジションが進展する中、この地域諸国と日本の関係を、安全保障・外交政策の観点から継続的重層的に討議・分析・研究し、政策提言するための委託研究を行った。

### 研究会の開催

- ・ 2023年4月に以下の論稿を発表した。
  - 「拡大NATOにおける核戦略」
  - 「欧州安全保障体制の変容—NATOによる抑止の可視化と『ロシア問題』」
  - 「バルト地域の安全保障： 変貌を遂げつつある『NATOのアキレス腱』」
- ・ 2023年6月に以下の論稿を発表した。
  - 「日本への核攻撃の可能性を考える—『核の三正面』時代のシミュレーションの観点より」
  - 「核大国化を目指す中国の狙い」
  - 「大国間競争時代の軍備管理における諸課題」
  - 「核抑止の仕組みとその機能—米国における核戦略の史的展開」
- ・ 2023年7月に以下の論稿を発表した。
  - 「座談会—本音で語ろう核問題」
  - 「G7広島サミットと『核兵器のない世界』に向けての取組」
  - 「日本の核戦略」
  - 「北朝鮮および中国の核使用シナリオ—安全保障コミュニティにおける議論のたたき台として—」

---

## 研究会の開催

- 2023年9月に以下の論稿を発表した。  
「米国経済の中長期展望—中国との競争に勝つことができるのか—」  
「中国の対米戦略」  
「米中関係において深まる安全保障ジレンマ」
- 2023年10月に以下の論稿を発表した。  
「『覇権国』アメリカの軌跡と課題」  
「米国の外交ドクトリンは変化したのか？」  
「米国の政治・社会の分断と民主主義の課題」
- 2023年12月に以下の論稿を発表した。  
「中国から見た『グローバルサウス（全球南方）』」  
「インドの『グローバルサウス』外交と日本の向き合い方」  
「グローバルサウスの概念とその歴史的発展・展望」
- 2024年1月に以下の論稿を発表した。  
「モディ首相のグローバルサウス重視はインドの軍事戦略にいかなる影響を与えるか」  
「人口爆発のアフリカ：“最後のフロンティア”は世界をどう変えるか」  
「ブラジル外交とグローバルサウス」  
「大国化を志向するインドネシアはどこに向かうのか： グローバルサウス外交の国内政治インパクト」

---

## 研究会の開催

- 2024年3月に以下の論稿を発表した。  
「イスラエル・ハマス戦争はなぜ起きたか」  
「中東和平の展開と今後」  
「パレスチナ問題の根源と展望 —イスラエル政治の変容と沸点としての「10.7」—」
- 2023年8月24日 日台ラウンドテーブルを遠景基金会と、以下の課題について開催した。  
「ウクライナ戦争の海峡問題への影響」
- 2023年4月から2024年3月の間に「Security Studies 安全保障研究」を3回刊行した。

(2024年3月末時点)

---

- メンバー
- 秋元 一峰  
秋元海洋戦略研究所 所長
- 秋山 昌廣  
秋山アソシエイツ 代表
- 畔蒜 泰助  
笹川平和財団 シニア・リサーチ・フェロー
- 伊藤 元重  
学習院大学 教授
- 犬塚 勤  
安全保障外交政策研究会 シニアアソシエイツ
- 植木（川勝） 千賀子  
早稲田大学 教授
- 尾形 誠  
前 在台北駐在武官
- 小黒 一正  
法政大学 教授
- 小此木 政夫  
慶應義塾大学 名誉教授
- 小原 凡司  
笹川平和財団 上席研究員
- 兼原 信克  
同志社大学 特別客員教授
- 神谷 万丈  
防衛大学校 教授

- 
- メンバー
- 亀井 善太郎  
PHP総研 主席研究員
- 川島 真  
東京大学 教授
- 阪田 恭代  
神田外語大学 教授
- 佐橋 亮  
東京大学 准教授
- 神保 謙  
慶應義塾大学 教授
- 鈴木 一人  
東京大学 教授
- 関山 健  
京都大学 准教授
- 高見澤 將林  
東京大学 客員教授
- 徳地 秀士  
政策研究大学院大学 シニア・フェロー
- 長尾 賢  
ハドソン研究所 客員研究員
- 西田 一平太  
笹川平和財団 主任研究員
- 西野 純也  
慶應義塾大学 教授

---

メンバー

平泉 信之

鹿島平和研究所 会長

細谷 雄一

慶應義塾大学 教授

松田 康博

東京大学東洋文化研究所 教授

道下 徳成

政策研究大学院大学 副学長

村田 晃嗣

同志社大学 教授

渡部 恒雄

笹川平和財団 上席研究員